

一九九二年

三〇周年記念論集（働く職場から）

私の仕事と社会

東京江東ロータリークラブ

職業奉仕委員会



はじめに

東京江東ロータリークラブ三〇周年の記念事業の一つとして、職業奉仕委員会は、会員の会社・事業所に勤務する方々に「論文」を募集致しました。勤続三年以上、十年以内を条件として、テーマは「私の仕事と社会とのかかわり」、としました。短期間でしたが、六社、二十一編の応募がありました。一人一人の文章の中から滲み出る誠実さ、意欲、知恵、将来への見透しなど貴重な考えが溢れています。

これは是非、ロータリアンの皆様にも読んで戴きたいと思い印刷に付することになりました。

一〇編を優秀なものと判定し、残る一一編は佳作といたしました。四月二一日(火)江東ロータリーの例会に於て優秀作一〇名の方々を岩佐守皓会長の名に於て表彰し、記念品を贈呈いたしました。

一九九二年四月二一日

東京江東ロータリークラブ職業奉仕委員会

委員長 戸 枝 義 明

委員 笹 川 治

委員 徳 岡 正 章

目次

はじめに……………	一		
優秀論文			
一．会社とローターアクト……………	笠原 栄村・三	A．吉田 篤人……………	一三
二．建設業とコンピュータ……………	木村 雅彦・四	B．松平 朋世……………	一四
三．物流の現場から……………	佐藤 肇・五	C．今泉 和美……………	一四
四．システム開発を通して……………	佐藤 広之・六	D．川上 正樹……………	一五
五．女性の職場を考える……………	鈴木佐知子・七	E．和田 耕治……………	一五
六．自分がお客様の立場で……………	塚本 雅恵・八	F．佐藤 茂……………	一六
七．システムエンジニアとして……………	蒔苗多佳子・九	G．庄子 昌宏……………	一六
八．情報化時代の製薬……………	丸山 英也・一〇	H．小松原 斉……………	一七
九．下町情緒地域で……………	三浦 敏光・一一	I．青木 隆明……………	一七
一〇．第二の人生の喜び……………	坂東 淳・一二	J．萩平 勝宣……………	一八
		K．多田 米子……………	一九

一．会社とローターアクト

笠原栄村

〒120 神奈川県川崎市幸区塚越一丁目一〇番地
日本製薬株式会社 管理本部
経理部経理課 勤続八年

私は、昭和59年春大学を卒業し、縁あって日本製薬(株)に入社しましたが、今にして思えば、社会人となつてあつたという間に8年が経過してしまつたような気がします。この間私にとつていろいろなことがありました。しかし、なんと言いましても、社会との係りを持つる場として、ローターアクトクラブに入会させて頂き、人に対する思いやりの気持ちを持つ事の大切さを改めて勉強させて頂いたことが最大の出来事だと思つています。当社の社是には、「深く研鑽につとめ、優れた製品を通じて、人々の健康を守り、社会に奉仕する」とあります。当社では私は経理部に所属し、会社の一員として業務に専念しておりますが、仕事をしていく中で何事においても社会に奉仕する気持ちを忘れる事なく取り組む事が必要だと思ひます。

社会人としての私の信条は、人間関係のあり方全てを大切に、人との「出会い・触れ合い・助け合い」をモットーに日々自己研鑽していく中で、色々な人から慕われ魅力ある人間になりたいということです。

現代の「タテ社会」という中で、最も大事な事は、

佳作

「ヨコ社会」における人間関係を如何に大切に築きあげていけるかであると私は考えています。企業は、人なりという言葉をよく耳にします。私もその言葉は大切な事と思ひます。如何に仕事での人間環境や自分自身を取り囲む色々な方々と接する機会の中で、人との関わり方の難しさや他人に対する思いやりを持つことの出来る人間でいられるか等、自分自身に厳しく、他人に接する時は如何に謙虚な気持ちをもつていられるかであると思ひます。その様な事を改めて実際に経験し体得させて頂いたのが、ローターアクトクラブでの活動(四大奉仕活動)でした。私が在籍中に奉仕活動を体得した事は、地域社会における活動の中での献血活動、清掃活動、福祉施設(手話の勉強)老人施設訪問での看護の手伝い等数多くの奉仕(サービス)活動を経験させて頂きました。又、クラブ・地区内外等、色々と役職を仰せつかった時、人の上にたつたのリーダーシップをうまくはかれるかどうか等、心配でした。人との係り方の難しさ等を経験し、また、国内はもちろん海外のメンバーとも友人となれ、同時に、ロータリアンの方々と接する機会も多く大変勉強させて頂いた事を感じております。ロータークラブには、社会生活における人間幸福は他人への思いやりと助け合いにあるという信条があります。そして、各人が例会における親睦を通じて自己を向上させ、その信条をもって自己の職場と地域社会を改善し、又、国際間の

理解を高める事を目的とされており。この「他人への思いやりと助け合いの心」がロータリー精神、ロータリーの心であり、ロータリーアクトの心でもあるといえる。私は思います。

今、自分が置かれている立場を考えると、仕事とは、日々の勉強と経験だと思えます。従って社会との係りを関連づけるとすれば、若年ながら色々な方々とお知り合いになる機会を持つ事が出来た事を、今後の一生の為、益々人間関係を築きあげ大切にしていきたいと思えます。また、地域社会での活動を経験し、体得出来た事も大変勉強になりました。しかし、経験は自分自身の為に役立ったわけですが、これからは、その経験を人の為に生かす側に使って行く事が大切であり、今後の私の課題でもあります。

これからの人生においても、ロータリーアクトクラブで今まで学んだ人間関係の大切さを肝に命じて、自分の信条である「出会い・触れ合い・助け合い」をモットーに、仕事に一生懸命頑張って行きたいと思っております。

二・建設業とコンピュータ

木村雅彦

多田建設株式会社 経理部

建設業ほど実社会と密接に関わっている業種は他に例

を見ないのではあるまいか。それは古くから言われている様に人間社会の根幹をなす衣食住の三本の柱の内の一つだからである。文明の指標とも言える建設活動の目的、それは人間社会及びその生活をより豊かにする事である。従ってその対象とする範囲も社会経済の発展と共に広がって来た。

内需拡大による公共投資の拡大や民間活力の導入により、衣食と共に人間の生活に不可欠な住居、道路、橋梁、治水等を代表とする社会資本の充実は昔からの建設活動の重要な対象であった。

建設業は周知の通り、単独受注生産で特殊性が高い。色々な資材を使い、労働者を集め、多くの業種が参加する。景気対策の柱に住宅建設が据えられるのもその為であって、それゆえに社会に対する波及効果が高い。しかしその反面、建設業が所謂3K業種である事も否定出来ない。その特殊性から昔からの古い体質が旧態依然として残っている事も確かである。

ここ数年来、理工系の学生が金融やサービス業へ流れるといった話をよく耳にするが、建設業もその例外ではない。その対策に各社苦勞しているわけだが、企業そのもののOA化もその対策の一翼をになっていると思われる。インテルジェントビルや工場の高付加価値化でOA施設等の設備部分のウエートが高まっている。それに伴って建設会社そのものがコンピュータ技術を含む施設

関連のハイテクを装備する事が必要とされ始めた。そういう意味でも私の所属する電算室の重要性は今後も増していくと思われる。近來のコンピュータは日進月歩、目まぐるしい速さで技術革新が行なわれ、ローコストでパフォーマンスの高い製品が次々と発表されている。それゆえに早いサイクルで製品が陳腐化する。実際のユーザーであり、専任者でもある私にとって、その技術革新のスピードに遅れる事のない高いスキルが要求される。コンピュータそのものの性能がどんなに良くても実際にそれを使いこなせなければ、それは無用の長物と化してしまふからである。私にとってはそのコンピュータの性能をどれだけ引き出せるか、又それによってどれだけ会社の省力化、処理の迅速化、高付加価値化が勝負となる。又会社のOA化は内勤者だけでなく現場員にも大きな影響を与えてゆく。市場経済拡大により工事は趨勢的に増加したのに対し、現場員の数はさほど増えていない。この事は現場員一人当たりの消化工事が飛躍的に増えている事を意味する。監視技術の大幅な変化でも生じない限り、一人当たりの消化工事が格段に増えるとは考えにくく、その事は監理業務そのものが潜在的に変化しているという事が考えられる。つまり以前は小規模な工事でも現場員が常駐し、事細かく指示を出していたが、現在は協力業者の自主管理にシフトしているという事だ。それに相反する形で元請企業はより高度な工程、原

価、安全管理が要求される。しかしそれが一定のラインを超えると人間だけの能力では対応しきれなくなる。そこでコンピュータの力を借ざるを得ないのである。この様にコンピュータは様々な諸問題を顕在化し、それを管理運用する事によって企業、ひいては社会の為に有益な手段となり得るのである。日本経済の拡大の一翼をになう建設業の今後の発展に微力ながらも尽力できれば幸いである。

三・物流の現場から

主任 佐藤 肇

丸八倉庫株式会社 葛西営業所

私は物流業としての倉庫会社で事務担当の業務について今年で十年目になります。今まで携わってきた貨物という点、小麦、食料工業品、紙パルプ、繊維、危険物その他等でおよそ業者として取り扱う大半の貨物を浅くではありますが、経験してきたと思えます。

私達営業倉庫業者は、当然のことながら、日常保管・荷役・配送と直接貨物に触れている関係上、幸いそれらを通して景気の動向をいち早く察知する事が可能な立場におかれているようです。例えばこの度のパブルの崩壊後、景気は落ち込み傾向を来しておりますが、それに合わせるかの様に全般的な荷動きも徐々に変化の兆が見えてきております。つまり貨物の回転が悪くなり滞留在

庫品が増加しはじめているという事です。景気の変動に對する営業倉庫への影響は、一般的に半年遅れのサイクルで到来すると言われています。しかし、貨物の動きを冷静に観察しておれば、景気変動の先行指標として活かすことができると思います。

都市型営業倉庫を取り巻く環境は、首都圏の地価高騰によって大きく変化してまいりました。一つには、再開発によって倉庫業を続ける事ができなくなり、そこをマシオンやオフィスビルを代表とする多機能ビルを建設し、倉庫業を縮小してゆく企業が目立ってきた事です。その影響でここ数年江東区近辺では、まとまった空スペースを確保するのが困難になりました。我社もその環境の中で今後の方向を、社員レベルでも模索し話し合っているところですよ。おそらく、今後は倉庫業だけを続けてゆくのではなく、異業種にも進出する時が近い将来きつと訪れると確信しています。

私は、私達を取り巻く社会の中で、更に大きく世界に視野を広げて見た時、戦後の国際政治に大きくのしかかっていた冷戦構造が民主化を土台に変化し、新しい東西関係が生れましたが、その過程で援助を必要としている国々がいかに多いかをマスメディア等でいやというほど知らされています。

例えば、旧ソ連に對する食糧援助とか、カンボジア難民の救済を物流業で協力し合つて援助してゆく等、国際

を確立する為のテクニカルな技術も求められております。この様な会社の内外における種々の要求を満たす為、システムを開発するにあたっては、たくさんの外部情報を取り入れて商品知識を豊富にし、業務内容を理解すると同時に、年々スピードアップされるコンピュータの新しい技術の進歩についていけるだけのスキルを持つ事が必要となってまいりました。

在庫管理にかかわらず、何か新しいシステムを開発する時には、他のシステムとのリンクやシステム全体の合理性の為、ともすれば独り善がりの世界に入ってしまうがちですが、真に役に立つシステムを作る為には、関係部署との話し合いを密にして、実際に使う人の立場や目的を考慮に入れて、システム作りを反映して行く事が肝要であると考えます。その為、現状分析の段階では、時にたくさんの方々の意見を取まとめる能力や、業務の標準化を進める為のコンサルティング的な能力、あるいは新しく作られるシステムのプレゼンテーションを行なうといった電算処理以外の力も重要な要素となってきております。

私の仕事は、良いシステムを作る為のこういった難しさがある一方、会社の一部門にいながらにして、経理部、営業部といった様々な部門に係つて会社全体を見渡して行けるという、やりがいのある仕事でもあります。企業の内、あるいは社会の中でも、情報システムの果

社会の中における日本の位置というものを、それぞれの人が理解しそれに見合った援助を、政府レベルでなく民間レベル、企業レベルでも案を出せると良いと思えます。更に職業を通じて、社外ブレイクを通じてそれらを行なうことができれば大変素晴らしいことだと思います。

四. システム開発を通して

佐藤 広之

丸八倉庫株式会社

私は現在、倉庫会社の電算部門で、システム開発の仕事に携わっています。倉庫業が、生産から消費に至るまでの物流拠点として、存在する位置づけに関しては、今も昔と変わりませんが、近年のメーカー、商社等の物流諸経費の見直しや、消費者の趣味、嗜好に合わせた多品種少量化の動きの中で、倉庫業も時代にマッチしたスピディーで、きめの細かい在庫管理への対応に迫られています。メーカーの自社倉庫と異なり、私の勤務する営業倉庫では、色々な業種の寄託者から、あらゆるタイプの商品を預かっています。管理形態も、場所別のロケーション管理、先入れ先出しの日時管理、アパレル等の色柄、サイズ別管理といった様々な形態が要求されます。又、倉庫を利用する多くの寄託者でも電算化が進んでおり、情報の受渡しの為の打ち合わせに参加する事も多く、通信等によるコンピュータ同士のコミュニケーション

たす役割は年々大きく、重要になってまいりました。私もシステム開発の仕事を通じて、コンピュータの知識だけでは無く、経営やビジネスをトータルに見る事が出来る様な、豊富な知識と経験を得るべく、広い視野を持って積極的に仕事をして行きたいと思っています。

五. 女性の職場を考える

鈴木 佐知子

多田建設株式会社 人事部

私は今年でやっと社会人3年生になったばかりで、仕事と社会とのかかわりについてというテーマについて考えて見てとても難しく考え込んでしまいました。普段いかにそういう事を意識しないで毎日会社、仕事に接しているかという現実を直面してこの機会に良く考えてみたいと思います。

私にとって社会と接する大きな窓口は会社です。ですから、視野が狭いようですが、会社が私にとって一番身近な社会であります。私は入社してすぐ現在いる部署である人事部に配属となりました。現在は主に給与関係の仕事を行なっています。入社当時、会社に入つて3年間は仕事を覚えるだけで精一杯で、3年以上経つて初めて一人前に仕事が出来ると言われた事があります。実際3年経つてみて、まだまだ覚える事がたくさんあります。とて一人前とは言えない状況ですが、一年目より

も二年目、三年目と着実に仕事の要領、工夫などで、時間の短縮やより改善された内容にと少しずつでも進歩するよう努力していますし、またしてきていると確信しております。

六、自分がお客様の立場で

塚本 雅枝

東京都葛飾区三ー二ー七高砂アパート二ー一

東京ガス株式会社 東部事業本部

深川支店販売グループ 勤続年数8年

私の勤務する東京ガス株式会社は、都市ガスの供給、ガス器具の販売、新宿・芝浦ほかの地域暖房等、都市生活を快適にする為の様々なサービスを提供しています。このうち、中心となるのは、都市ガスの供給です。工場で都市ガスを製造し、ガスを通して御客様である家庭や企業にお届けするまでを、一貫して行なっています。このため、製造・ガスの管理・販売の業務を行う専門の事業所が、地域ごとに設けられています。私の働いている深川支店は、販売部門の事業所です。御客様のご家庭内のガス設備の安全確保、ガス器具の販売・修理、料理教室の開催その他のサービスを提供することと、ガス料金を頂くことが業務で、会社と御客様との接点にあります。私は事務担当のため、実際にお客様のお宅に伺うことは無いのですが、支社には、転居による元栓の

開け閉め、ガス器具の取り付け・修理などのお申込みから、お問合わせ・苦情まで、お客様から直接にまたは電話を通して、様々なお声を頂きます。こうしたお客様の声に、早く正確にお応えして、お客様に安心して気持ち良くガスを使って頂けるようにすることが、私の仕事です。

東京ガスという会社は、首都圏にお住いのほとんどの御家庭がお客様です。つまり、私達にとつて、地域社会全体がお客様ということになります。ですから、私は、私と社会とのかかわりは、そのまま私とお客様とのかかわりであり、お客様一人一人に、誠意を尽くすことが、私にできる社会貢献になると思っています。

現在、東京ガスでは、お客様の身になって考えて親身のサービスをするという意味で、「マーケットイン」という言葉をモットーにしています。私も家庭に帰れば、一人の主婦であり、ガスの消費者である訳ですから、お客様の御要望には、できるだけ「自分がお客様の立場だったら」と考えてお答えしようと思っかけています。又、支社から出勤していく男性社員たちを、「笑顔で御客様に接して下さい」という気持ちを含めて、笑顔で送り、笑顔で迎えることも、もう一つ私の心掛けていることです。私にできることは、決して多くはありませんが、こうした小さなことの積み重ねが、会社とお客様、会社と社会をつないでいるのだと思います。私は、

地域社会全体を支える都市ガス事業の一員として、自分が社会に貢献していると実感できる今の仕事に、やり甲斐と満足感を持っています。

七、システムエンジニアとして

蒔苗 多佳子

株式会社開発計算センター 第一事業部

東京都江東区深川二ー二ー一八

勤続年数六年一ー一カ月

私が勤めている株式会社開発計算センターは、一九六三年、国策会社、電源開発株式会社のコンピュータ部門を母体として発足した。創立以来、我が国のコンピュータと共に歩み続け、電気、機械、土木、建築から社会経済の解析・計算をはじめ、ソフトウェアの開発・販売、オンラインシステムの開発、更にはOA機器の販売、リース及びコンサルティングまで幅広い分野の業務を担ってきた。そしてこの一九六三年に私はこの世に誕生した。私は、システム・エンジニアとして入社して今年三月で満七年となる。この間、主に火力発電所における経理管理・運転管理等の業務の機械化システムを担当してきた。そのため、日本各地の発電所へ何度も出張している。発電所といえば男性社会である、私が発電所の業務を担当しはじめた頃には既に「女性の時代」と言われていたが、それでも発電所を訪れる女性は珍しかったようである。「おやつ？見慣れない顔：バイトの娘？」

と声をかけられることもあった。OA化社会と言われていたが、コンピュータは難しいものと敬遠され、できれば避けて通りたい、というように思われがちである。キーボードさえはじめて触れるという方もけっして珍しくはない。日常業務のOA化も進み、いやがおうでもコンピュータに向かわざるを得なくなった今、コンピュータアレルギーの方たちにかたしてコンピュータと仲良くなってもらえるか、その手助けになればと日々思っている。システム・エンジニアの仕事は、システムを開発している時は、ディスプレイと向かい合わせの一人の静の世界である。システム開発時も、システムが出来上がっている説明時にもかたに親しみやすくお客様に使っていただけのかをいつも考えている。

女性であるが侮られず、かといって逆に怖がられず、微妙なところが難しい。現代は昔に比べ、女性が非常に働きやすい時代になりつつある途上にあると思う。結婚後も働き続けるのが当然のような時代である。私も昨年結婚し、日々家庭と仕事との間のジレンマに悩みながらではあるが、相変らず、仕事を続けている。核家族が進んだ昨今、問題は出産である。育児休暇制度が実施されつつあるが、給与面・保育面等とでいろいろ困難が待ち受けている。

我が社では、育児を経験して、なおかつ仕事を続けている、という女性システム・エンジニアの事例が今のところまだない。そのため、会社レベルでのより良い制度

を提案していきいたいと思う。又、会社における制度、諸先輩方の生き方には非常に興味を持っている。微力ではあるが会社に貢献しながらも、より充実した暮しが出来るよう、好奇心のアンテナを伸ばしていきたいと思う。

八・情報化時代の製薬

丸山 英也

千葉県八千代市八千代田台東一―二〇五一

三四―二〇五

日本製薬株式会社 研究部

勤続年数約8年

まず私の仕事ですが、私は製薬会社の研究員をしています。研究者と言えば聞こえが良く、楽しいものだと思います。研究されるかもしれませんが、実際は深く突き進めれば進める程、仕事が生じ相当時間のかかる苦勞も多い職業でもあります。しかし、私としてはこの仕事に就いて、ある研究で新しい発見をした時、至上の喜びがあると考えております。このように研究職は私にとって苦勞も多い反面大変楽しいものであり、日夜希望を持って従事しております。

さて、私がなぜこの職業を選んだかと申しますと、やはり子供の頃から自然科学が好きだったからでしょう。また製薬会社に入社したいと考えたのも、思う存分生命科学を突き詰め、現代そして未来において病気で悩める

が、このように、実際では多くの点で社会情勢に左右されています。

そこで私は、このような社会における医療問題に対し限りなくより良い治療の為の薬剤開発をし、次々と発見される新しい病気や今迄根絶の出来なかった病気の研究をして、今後とも日夜努力し、社会に貢献する為に頑張っていくと考えております。

九・下町情緒地域で

三浦 俊光

多田建設株式会社 経理部

昭和六〇年四月に多田建設株式会社本社経理部に入社してから、江東区との付き合いが始まりました。正確にいうと学生時代に深川の本屋でアルバイトをしていましたので一〇年近くの付き合いになると思います。深川祭など昔ながらの下町情緒を色濃く残した土地柄は、人柄にも表われ、非常に人と人とのつながりを感じる所だと思えます。

そういう風土の中に事務所を置く当社に入社して、地域と一体となった事業ができることを嬉しく思います。上下水道の整備、橋の改修等を手がけ、現在江東公会堂の建築をしており、会社として地域と非常に深い関わりを持った仕事ができていると思ひ、地域の発展に少なからず貢献していると自負しています。私個人としまして

人達を少しでも救ってみたいという願望があったからであります。それは今考えると青春時代の甘く、若い考えだったのかもしれませんが、それがきっかけで今でもこの職業に生きがいを持って働いております。

ここで、私の仕事と社会との関わりと言う事ですが、私の仕事はやはり多くの実験と豊富な知識の積み重ねにより、より良い薬を研究開発し、社会にいち早く出す事にかかっていると考えております。私たちの会社の社にもありましたように、優れた製品をもって社会に奉仕する事が私の使命であると思っております。その為には今以上に勉強し、多くの実験を行ない、効率良く迅速に、製品化する事も必要であります。一般的に研究者は一つの事に没頭してしまう傾向がありますが、それではこれからの新しい時代にはとりに残されてしまうとも考えております。それゆえ多くの新しい情報を得る事も研究者にとって大切です。現代は情報化時代であり、学術会議や多くの文献などによりそれを得る事が出来ますが、まだまだ研究者として外の世界を知らない面もあります。競争の激しい製薬会社の新製品開発にとっては、このような社会の情報はいち早く知るべきで、研究者としては今社会で求められている製品の形に迅速に合わせながら、今後必要と考えられる薬品を社会での様々な情報より得て想定し、研究開発しなければなりません。私の職業は社会とのかわり合いが少なく見られがちです

も、多田建設事業協同組合という下請業者の事業の助け及び事業主の教育、情報提供を目的とする組合の事務局を三年間担当しています。当組合員のほとんどがこの地域に事業所を置く中小企業であります。中小企業の多くはその地域の技術、人材等を活用して、地域の特色ある発展、地域文化の創造に貢献しています。現在、中小企業は消費者ニーズの高度化、多様化、急速な技術革新、人材確保難、外国製品の輸入増大の要請の高まり等の厳しい環境変化にさらされ、適切な対応ができずに経済力を徐々に低下させてきています。そのような状況下において、当組合は、組合員に対して、思いどおりにならない事業資金をなるべくよいレートで、かつ手続きを簡便化して、貸付をしましたり、節税対策、経営セミナー等の講習会への参加を東京都中小企業団体中央会を通して、組合員個体ではなかなかできない事に手助けする事で、組合員（中小企業）の発展、活性化に貢献し、ひいては地域社会の発展に貢献していると思ひます。将来に於いて、この地域は再開発計画、新都心計画等大きく発展していく所です。こうした中で、これからの企業及び個人は、規模の差こそあれ、地域社会とともに発展していかなければいけないと思ひます。

坂東 淳

多田建設株式会社

私は、三〇数年勤務した公務員をリタイアし、全く経験のない建設会社に再就職、第二の人生を歩み始めてから、今年四月で早くも八年が経過しました。会社では私は最初本社の労務安全部に所属していましたが、現在は企画室に所属しています。担当業務は、主として建設現場に勤務する従業員に対しての事故防止や外部の人達とのトラブル防止など現場作業所の適正な安全管理をどのようにすればよいかについての指導、それと社内報の編集発行、その他社内規則の整備などです。さて、私の公務員時代での勤務心得は、国民全体の奉仕者として公共の利益のために尽くす、という事が主眼でしたが、会社勤めの現在では、企業ともなれば先ず営利の追及を考へなければ会社は成り立ちません」ということです。ただし、営利の追及のみに走る企業は早晚社会的な信用をなくし、永續しない事は過去の例から見ても明らかです。例えば、私どもの会社で具体的に申しますと注文された施主様に安価で安全で快適な建物（住宅、事務所、ホテルなど）を提供し、お客さんに喜んでいただく事が第一です。また、建物を完成するまでの工事の過程においても、発生する騒音、振動、塵芥、悪臭、交通妨害などのあらゆる近隣環境阻害の行為を最低限に止める努力や

住 作

A

吉田 篤人

東京都稲城市東長沼四三五番
日本製薬株式会社 医薬情報課

約五年

私は昭和六二年四月に日本製薬株式会社に入社し、現在、医薬情報部医薬情報化という部署に所属しています。当社は医薬品の製造・販売を業務としています。製造品目は大きく分けると血液製剤、輸液、一般薬の3つになると思います。

それぞれを簡単に説明しますと、血液製剤は人の血液から有効な成分を分離精製濃縮して作られるもので、重症感染症などに使用する免疫グロブリン製剤、重症の火傷などに使用する人血清アルブミン、血友病の患者に使用する凝固因子製剤等があります。輸液は、点滴で使う医薬品です。細かく分けると多くの種類がありますが、当社では高カロリー輸液用の製剤、アミノ酸製剤、脂肪乳剤等を製造しています。いずれも手術前後などの低栄養状態時の栄養補給に不可欠な製剤です。一般用薬とは、薬店、薬局で処方箋の必要なく一般の方が購入できる薬のことです。当社では消毒剤やドリンク剤を製造しています。私の所属している医薬情報課は上記の製品について、厚生省の再審査を中心に、ユーザーからの問い合わせ対応、包装表示関連事項などを主たる業務としています。

私は異動後一年ということもあり再審査などの重要な業務に直接関与するものは少なく、再審査に付随した作

工夫をしなければならぬし、さらには工事前や工事後においても、これらの問題が、社会的に公正妥当で納得のいく方法が考慮され、クリアされてなければなりません。このことは要するに、企業としては、地域社会：大きく見れば国際社会：から愛される信頼される企業市民でなければ発展がないということで、企業が社会と共存共栄することによって長期安定的な成長と繁栄が確保できるという理念を持たなければならぬということだと思います。私は、このような理念にもとづき、常にこのような心構えで社会に接するとともに現場従業員に対しても、「現場は会社の顔であり、現場の人達の服装、態度、行動などが会社全体を評価される」旨声を大にして言い続けております。そしてこのような問題を解決するには、各人の絶え間ない創意工夫による技術の研究と開発が大切ですし、さらには、人と接するには心の余裕を持つ事が必要です。私は幸い社内報の編集をもさせて頂いているので、「昨年あたりから先ず、魅力ある職場づくり」で心の余裕を持つとうと言う事で、これを社内報でキャンペーンを続けさせていただいております。

最後になりましたが、肝要な事は、前述の理念の実現には会社トップの理解と旗振りがないとどうにもなりません。この点当社では、むしろ、会長、社長が率先実行されていますので、私自身としても気がねなく、のびのびと仕事ができます。「この会社に入社して運がよかったです」と感謝に満ちた日々を送る今日この頃であります。

業、医療従事者（医師、薬剤師等）や一般ユーザーからの問い合わせ対応や、資料作成等の業務を主に担当しています。日常の業務の中で一番多いのは問い合わせ対応ですが、一口に問い合わせ対応といっても、「この免疫グロブリン製剤のIgGサブクラスの組成は？」といったハードなものから「風呂場のカビ取りにはどんな消毒剤がいいかね？」のようなソフトウェアのまで様々です。答え方にしても相手のレベルや何をどの程度まで知りたいのかを的確に把握しておかないと、混乱を招くばかりか失礼にもあたります。また、医薬品に関することですから、誤った解答をして製品の誤用の結果、大きな副作用や誤用事故が起こったら大変なことになります。何と云っても、回答しているときの私はある意味では会社の代表なのです。よって、そのようなことにならないように、問い合わせが来た時は質問の内容をよく理解し、問題点を明確にして相手に確認することや、自分が手に負えないような質問の場合は詳しい者に回答を依頼し、回答内容を良く聴き、理解すること等を常に心掛けています。（当たり前のことですが）こうしてみると、問い合わせ対応とはいっても、私の担当する業務のうちでは最も社会に対して果たす役割の大きいものだと思います。「正確な情報をわかりやすく迅速に伝達する」ということはあらゆるビジネスの中で基本中の基本といえますが、実行するには多くの経験や熟練が必要なことだと思います。私もまだこの業務を担当して一年が過ぎたばかりですから、多くの学ぶべきことが残されています。今後ともユーザーに対して理想的な回答ができるよう研鑽に励みたいと思います。

B

松平 朋世

建設業とこの世の中とは、切っても切れない関係にあり、とても重要な関わりを持っていると思う。身近なことと言ってみれば、私達が住む家だって会社だって建設するのであるから。環境を良くするのも、老朽化したものを修復するのも、この仕事をする人なくては出来ないことである。

このように、世間社会的にも重要な仕事であるのに世間の方々は矛盾している考えの持ち主が多くいるかと思う、近ごろはこの職業をきつい、汚い、などという意味を含めた、3K、10K、なんて言葉を作り、言いたい放題である。それでいて、建物でも道路でも、老朽化したり、壊れていたりすると、何で直をささないんだなどと文句を言う人が必ずいる。全く、矛盾しているのではないか、と思う。確かに私も、そんな風には思っていない時もあったが、建設業界の職業についてからは、そんな矛盾に気付き、冷静に考えられ、見方は変わってきた。私も少し前までは、気付かない部類に入っていたのだから、偉そうなことは言えないが、きついだとか、汚いだとか言われては、そういう仕事をする人達がいなければ、一向に社会的にも、発展は望めないのではなからうか、こういった矛盾を気付かずにいる人達に分かってもらえる、理解してもらえ努力を建設業側としてもする必要はあり、努力もしているがなかなか伝わらないのであるかと思う。でもなるべくたくさんの人達が早く分かってくれると良い。このように、建設業と世間会社はとつても身近かな密接な位置にあると考えられる。

C

今泉 和美

現在、私は、秘書室に勤務しており、会長はじめ七名の役員の方のお世話をさせていたでおります。主に秘書室では、役員の方のスケジュール作成、調整、文章類の作成、整理、保管などを行っております。当社の会長は、外部団体の要職を勤めておりまして各所会員の方々との対応が多く接客、電話応対など特に注意しております。接客応対では、お客様と接する機会が多く案内をする際やはり、役員の方の事、会社内の事、外部の事などでもお客様が話をされる時「ハイ」とばかり返事をしているも話ごとぎれてしまいますしその事について、私はどう対応出来るかお客様も見ていらつしやることで、それが発揮出来ないということは、まだ自分は、勉強不足だと思ひこれからもっと積極的に物事を知るよう勤めていき余裕を持った応対をしていきたいと思ひついでいます。電話応対は相手の顔が見えないだけに声だけが頼りですので、聞き違い、聞きえにくくては、正確な情報伝達が出来ず、自分が間違いをおこすと大変な事になってしまふということ等を常に考え、一本の電話にも最後まで責任をもって処理をしていくことを心掛けています。秘書室は、総務部と同様、会社の窓口として、他の会社から評価されると思われますので、その意義を常に忘れず、行動することそれが私どもの最大の仕事だと思ひます、廻りに気を使い、次にどうしたら良いか即時に判断しより正確に物事に対処するそれが当り前だとの認識を外部の方に思っていたらければ、幸いだと思ひます。お客様に安心感をもたせるようにするのも一つの仕事と感ぜられます。

D

川上 正樹
多田建設株式会社 総務部

勤続八年

つい先日「子供の頃将来何になりたいと思ってましたか。」と聞かれて、すぐには答えられなかった。もう一〇年以上も子供の頃の将来の夢など全く考えたことがなかったからだ。暫くたって、私は大工になりたいと思っていたことに気が付いた。大学は文科系を卒業し、現在勤務している建設会社に就職してもう六年になる。子供の頃の夢などすっかり忘れていた私が建設会社に就職したことは偶然だが、必然といえなくはない。就職の際に将来の仕事について具体的なものはなかったが、少なくとも「社会のために」という漠然とした希望はずっと以前からあったし、また幼い頃、木造の家を建てるのを見てスケールの大きい仕事という印象が残っていたからだ。完成の後、家具が入り、生活の灯りがともるのだから尚更だった。建物を建てるというスケールの大きさとは、建設会社に就職したことで日々実感している。産業としての裾野の広がりもさることながら、生活・産業の基盤を造るといふ点で他に類を見ない業種であり、当然社会的意味も大きい。それだけに兎角誤解されやすい面もあるが、社会資本の蓄積に大きく寄与している業種であり、私もここで仕事をすることに誇りを感じている。

最近、企業の社会性が盛んに話題にされている。物質文明の行きづまり、バブルの崩壊、サービス過剰など、様々な面から問題とされるが、その原因は倫理性の欠如が殆どだろう。仕事観について、日本には昔から諸外国に比べて独特の観念があるように思われる。日本以外の先進国では仕事＝労働＝骨折りとといった認識が色濃

い。もともと人生の殆どが神から与えられた試練と考えるためだろうか。それに対して日本には仕事は感謝すべきものという認識がある。収穫や成果のみでなく仕事そのものに対しての感謝だ。仕事そのものに感謝するということは、勿論その前提として、目指すべき社会の方向や周りの環境、それによって得られる効用の広がりなど様々なものを仕事の中に含めて考えらるることになる。つまり仕事を単なる骨折りとしてではなく、喜びとしてもとらえることだ。ここに倫理性がある。企業ばかりでなく社会を構成する全て、トラブルが起きるのには倫理性を見失った場合だろう。秩序を狂わせ、環境を破壊し、その負担を後世に負わせることになる。折角、懸命に努力した結果がこれではいかんともしがたい。倫理性を伴ってこそ本當の発展があるのではないだろうか。

和田 耕治

E

多田建設株式会社

私は建設業に従事しておりますが、この仕事に対して誇りを持っています。なぜなら、建設業は人間が生活するために必要な「衣・食・住」の中の一つを担う基幹産業であるからです。

建設業と社会とのかかわりは、私達が日常生活を送る中で様々な場面で遭遇します。例えば、生命の誕生を迎える病院、教育の場の学校、交通の基盤の道路、安息の

場の公園など生活には不可欠なものばかりです。建設業はあらゆる技術の粋を極めた産業であり、建設業はその時代の文化として後世に伝えるための遺産でもあります。古代から現代に至るまで技術的にあらゆる面で進歩を成し遂げていますがその建設物がそれぞれの時代で社会とのかかわりをもっていたのは疑いのない事実です。これからも私達は、より良い社会とのかかわり、すなわち建設物をつくることが使命であり、それにより生活する人々が安心して暮らせる街づくりをめざしてきたいと思えます。

F

佐藤 茂

多田建設株式会社 経理部

私は、建設会社に勤めて、早一〇年近くになりました。事務系の電算部門を担当、二児の父、当年とって三〇才いろいろある業種の中でも建設業は、特に公共性のある社会とのつながりの濃い職種ではないかと考える。だから企画化された、社会全体の構造、バランスの中で、仕事がなされなければならないのに、「どんぶり勘定」という言葉に代表されるように、公官庁、民間から受注した物件を、ひたすら林立しつづけた時代がありました。だが、最近では日照権だとかということもありますが、↓住人はもとより、工事現場や建造物がそこにあつて人々に及ぼす影響力を考慮して、いろいろな配慮がなされてきている、一つに、夏の蒸し暑い日に、工事現場を通りかかると、うるさい、臭い、見るからに暑さを協調するようなものですが、現在は現場の囲いに青い空と緑の大地そして、天空より降り注ぐ滝の絵が描かれている。そ

たことを述べてみたいと思います。定年は、行政の指導もあり、六〇才定年がようやく支流になったようです。私の会社も定年は六〇歳ですが、さらに六五才まで働ける「再雇用」の制度があります。定年の六〇才で退職した人は、病気などの理由を除いては、今まで一人もいません。健康な人達はみな、再雇用制度を利用して六五才まで働いているのが実情です。日本人の平均寿命は、年々延びています。先ごろ厚生省が発表した一九九〇年の「簡易生命表」によると、平均寿命は、男が七五、八六才、女が八一、八一才で男女ともに依然として世界のトップクラスを維持し続けています。又、二〇二〇年には四人に一人が六五才以上の人口構造になると予想され、その分若い人の老人負担が増加するともいわれています。このような理由から、政府は、厚生年金の支給年令を、六〇才から六五才に引上げることを検討しているといえます。とすれば、六〇才定年では益々社会との整合性が無くなってしまうのではないのでしょうか。私の会社の「再雇用」の制度はそれなりに評価できます。しかし、行政はもう一步進めて「六五才定年」の指導をするべきだと思えます。それによって、定年後の生活の安定と生きがいと老人に与え、若い人の老人負担の軽減を図れるのではないのでしょうか。

H

小松原 斉

安田信託銀行 錦糸町支店

私は昭和五九年四月安田信託銀行に入社し、同時に社会人としての第一歩を踏み出した。この間、信託マンの一員として社会とかかわり、様々のことを経験し、成長してきた。

信託銀行の業務は、預金、融資、証券、年金、不動産等非常に幅広い業務がある。特に、個人、法人の大切な資金

れだけで、人というものは、和むものであり、通行人は建設業に対する見方を少しだけでも理解してもらえないのではないのでしょうか。良質で低価なものを社会に放出できれば、最高の喜びですが、その為には技術の向上と、厳密な原価管理にあると思えます。コンピュータを駆使し、無駄を除いてより合理的な原価管理をすることを、第一の目標としています。

建設業界でも、コンピュータを利用した事務の標準化の声も上がって（建設産業情報ネットワーク）きている。業界全体の合理化、よって良質で低価な建造物につながるのではないのでしょうか。そして標準化の上に、他社と違う差別化、特色を出していかなければならぬ。OA化は、今後とも発展し、社会とのつながりを深めていく。

G

庄子 昌宏

丸八倉庫株式会社

一九九〇年八月、私は人事異動で、東京の本社総務部に赴任しました。それまでは、仙台営業所に在籍し、倉庫業務が中心の仕事を行っていました。それが一転して総務担当となり、今度は人事、労務といった今までとは異なった仕事を行なうことになりました。

私が総務を担当して思ったのは、総務の仕事に、社会の諸問題がかかわってくるものが少なくないという事でした。例えば、社会の高齢化は、労務管理に、労働時間短縮の問題は、人材確保、労働条件の面にかかわってきます。そこで私は、このテーマの「私の仕事と社会とのかかわり」について、労務管理と社会の高齢化に問題を置換えて、感じをビックや預金として安全・有利にお預かりし、一方で資金を必要とするお客様にご利用いただくことにより、企業や社会の発展、地域の環境整備や生活向上に役立てていただく事は、本当にやり甲斐のある業務の一つである。この世にお金というものが存在するかぎり、銀行は必要不可欠なものであるが、経済の主役「モノ」を作る人達であり、銀行はそれを資金的に支える脇役であると思う。

それを実践するためには収益性だけでなく、銀行の社会性、公共性を絶えず念頭に置いた行動が必要だと感じている。最近、証券会社、銀行の不祥事が多発し、金融機関の社会的イメージが大きくダウンしていることは大変残念なことである。

水が高い所から低い所に流れるのは当然という人もいるが、信託銀行員として、経済的合理性だけで仕事をするのでは足りないと思う。自分の今やっている仕事が本当にお客様の為になっているという充実感があって、初めて息の長い、よい仕事ができると思う昨今である。そして、こうした気持ちを持続続けたいと思っている。

I

青木 隆明

東京都練馬区東大泉5-18-17

東京ガス株式会社 東部事業本部

総務部人事グループ 勤続五年

天然ガス——このクリーンなエネルギーの安定供給に向けて日夜業務に取り組む私たちですが、都市ガス事業者として、実に様々なセクションで働く人々がいます。まず、世界中に散らばる天然ガス産出国のうち、ブルネイ、アラスカ、マレーシア、オーストラリアから大型タンカーにより運ばれてくる液化天然ガス（Liquefied Natural Gas：LNG）からガスを製造する生産部門があります。次に生

産部門で作られたガスを受け持ち区域全般にとぎれることなく送り続けるため、ガス管や付属の施設を日夜守り続ける導管部門があります。そして、お客様に安心して快適にガスをご利用いただくために、お客様と直接ふれあい、機器の安全点検を行ったり、ご相談に応じたりする営業部門など関係会社やグループ会社を含めて、各社員が担当する業務は多種多様です。その一方で、我々は皆、共通の使命感を持って働いております。それは、お客様の立場で仕事を進めよう、そして快適な都市生活づくりのお手伝いをしたい、ということなのです。

私は、営業部門の東部事業本部に所属しております。東部事業本部は、主として東京都江東区をはじめ墨田、台東、文京、荒川、葛飾、足立、江戸川の各区、さらには埼玉県草加・八潮・三郷市そして茨城県日立市、竜ヶ崎市の千葉県の千葉・木更津両市など幅広い区域を担当しており、そこにおよそ一四〇万件のお客様がいらっしゃいます。東部事業本部には、これらのお客様のお安全の確保と幅広いニーズの実現に向けて、ガス設備の安全点検、ガスご使用量の調査、ガス栓・ガス管修理や機器修理などの分野から、一般のご家庭、レストラン、工場等のご相談係としての分野まで数多くの社員が従事しています。日々、お客様と直接お会いしながら、直接お話を聞きながら、仕事を進めております。

私は、総務というセクションに属しており、直接お客様にお会いする機会が少ないのですが、前述のような最先端で働く社員にとって、一層働きやすい職場、やる気が出て働きがいのある職場づくりを目指し、社員の能力を新たに発見したりまた伸ばしていく為の教育制度の充実など、幅広い必要だろう。

別視されていて、誤動作は許されない。神の権威が少しうすらいでいる時代では、コンピュータは、いわば時代の神（の代用品）なのだろう。

こうしてみると、私の仕事というものは、もしかすると、昔の神官のようなものかもしれない。しかし、歴史上の事実として、一部の悪らつな人々が神の名をかたって民衆をだましたり、神の名のもとに、でたらめがまかり通った時があった。同様なことがコンピュータの利用について起こらないとも限らない。このような世の中に、物質的にも精神的にも、比較的大きな影響をもたらす道具の利用には、論理だけでなく、倫理も同じくらい必要だろう。

さて、最近の計算機技術の発展には、目に余る（？）ものがあり、ひと昔前にはSFだったものが、次々と現実化してきている。ただ、SFにもいろいろあって、ユートピアをテーマとしたものもあればディストピアもあり、繁栄もあれば破滅もある。できれば良いほうが現実化してくれる方を望みたい。一部の人々を除いて、破滅を待望している人はいないだろうから……。ただ、判断しにくい事はあるかもしれない。例えば、コンピュータゲームの画面を見続けている子供や大人は、近視や、他の諸々の影響で視力を落とす事が多いが、これを悪い事と判断しない方がいいかもしれない。彼らは近いところにある物や、動く物に対して、いわゆる普通の人々より良く見えていたりする。これは、実は現代の状況にうまく適応したのかもしれない。コンピュータは、世の中の人々が思っているのと別の面で、社会に良くなかかわっているのかもしれない。そして、私は世の中を変える為（？）仕事をしているのである。

広い観点からよい職場環境づくりに取り組んでおります。よい職場環境が社員にやる気を起こし、よい仕事をしてお客様に十分に喜んでいただき、社会に貢献できる。その結果、さらによりよい職場環境を実現できる、というサイクルの確立こそ私の最大の目的であります。この目的を達成することにより、間接的ではありますが、ガスを通じた社会貢献ができると考え、今後とも努力を惜しまぬ所存であります。

J

萩平 勝宣
株式会社開発センター 第二事業部
勤続三年十一月

最近の世の中の動きというのは速く、少し前の時代であれば考えられなかったような事が、あらゆる分野で次々と起こっている。コンピュータなども、少し前ならばSFの世界でしか存在しなかったものだが、今や、世の中になくてはならない存在になってしまった。私の仕事は、いわゆるシステムエンジニアと呼ばれるもので、そのコンピュータを相手に、頭と手を使って格闘しているわけである。

よくいわれる事として、コンピュータは人間と比べて単純なミスをしないので、端的に「コンピュータは間違わない」、人間の一つのミスも許さず、厳密な論理を要求してくるので「融通が効かない」などと思われているのだが、実は、プログラミングが誤っていけば、人間の常識を超えて、とんでもない結果を出してしまう機械でもある。これはどんな道具でも、使い方を誤ると役に立たないという事なのだが、コンピュータは世の中では特

K

多田 米子
株式会社開発センター 第二事業部
江東区深川二二二一八
勤続三年十一月

私達は電化製品に囲まれて生活しています。会社でも家庭でも必ず何らかの電化製品を使用しています。使用している電気は発電所で発電され、電力会社のいろいろなシステムを通してきたものです。私の勤めている会社はコンピュータソフトウェアを作っていますが、親会社（株）といたこともあり、多くの電力関係のソフトウェアを作成しています。電力関係のソフトウェアといたってもその種類は多く、色々な分野に広がっていますが、大きく二つに分けられます。一つは発電所ができてから前に使用するものと、もう一つは発電所が運転を開始した後に使用するものです。発電所を作る前には、立地する場所はどこが適しているのか、また立地した後は周りの環境にどのような影響を与えるかなど、いろいろな角度から調査・予測し、その結果を分析・検討します。運転開始前に運転開始後のことを検討するわけですから、計算機上で環境の変化等をシミュレートします。発電所の運転開始後は、発電所の周辺環境が壊されていないか、また発電および送電システムが正常に効率的に動作しているのかをチェックします。これらの作業は手間がかかり、しかも多くの項目に分かれます。そのため計算機を用いてこれらの作業を手助けする必要があります。私はそのうち、地熱発電所を立地するための調査結果を検討するソフトウェアを作っています。計算機上で表示したハ調査結果の項目を選択するだけで、グラフや図

ロータリーの友殿寄贈

43.2

13156

ロータリー文庫

画をディスプレイ装置上に自由な角度、縮尺で図示することが出来るものです。以前は手作業で描いていた図面を計算機上で容易に作成することができるようになりました。利用している方々からの希望をできるだけ取り入れて、少しでも使い易いものになるようにと作っています。

普段は何気なく使用している電気ですが、コンセントのところへ届くまでには色々な過程を経ています。私も仕事を通して、電気がいつも安心して使えるように微力ながら頑張りたいと思います。